

会長就任にあたって



宮坂 明博 新日鐵住金(株) 代表取締役副社長

この度、第51代日本鉄鋼協会会長に選任された宮坂明博です。

1915年に設立され、野呂景義が初代会長に就任して以来、我が国の鉄鋼技術を支える本会の会長職は私にとりまして大変な名誉であると共に、責任の重さを強く感じております。私自身も、論文の投稿、講演大会での発表、討論などの本会活動を通じて、組織を超えて多くの技術者、研究者と交流でき、社内では得られない多くのものを学び、鍛えられてきたと思っております。微力ではありますが、会員の皆様のお力をいただき、伝統ある本会の発展に精一杯努力して参る所存です。

近年、我が国の経済は少子高齢化の構造変化とグローバル大競争の荒波に晒され、幅広い産業分野で内外の企業が厳しい競争を繰り広げています。こうした環境の中で、我が国鉄鋼産業は国際競争力を強固にするため、企業統合を含む産業再編成に取り組んでいることは皆様ご高承の通りです。鉄鋼業は製造業の基礎を支える重要産業であり、我が国が持つ世界最先端の鉄鋼技術を継続的に発展させ、世界の鉄鋼技術をリードすることが我が国経済発展の原動力であると確信しております。

一昨年、東日本大震災の記憶は忘れることのできないものでありますが、私たちはこの震災を契機として、国民の命を守る工学の再構築の必要性を認識しました。鉄鋼材料は安心安全な国家の建設に不可欠であり、それを支える鉄鋼技術の社会的重要性も高まっております。また、鉄鋼技術は多くの工学分野が融合した総合工学であり、これまで幅広い領域を通じた産学連携によって国際競争力を維持してきましたが、こうした取り組みをさらに強化していきたいと思っております。

本会は、今から100年前、基本思想に学理と実業の結合を掲げて設立されて以降、総合工学としての鉄鋼技術の基盤強化、競争力強化に切磋琢磨してきました。今後も、この基本思想を引き継ぎ、より進化した産学連携や他分野の学協会との積極的な連携などによって、「工学」の再構築に繋がる活動を展開したいと思っております。

最近の本会の活動は歴代の関係者のご努力により活性化しております。情報発信機能の強化として、論文誌のフリーアクセス化や電子投稿・審査システムの運用を開始した結果、海外も含めて論文投稿数および掲載数が増大していることは嬉しい限りです。世界から多くの優れた論文を集め、それらをジャーナルとして世界へ発信していくことが学術団体としての本会のステータスを高めます。

また、次世代を支える人材育成に関しては、一段と活動強化が図られております。「修士学生向け鉄鋼工学概論セミナー」、「学部生向け最先端鉄鋼体験セミナー」、「企業経営上層部による大学特別講義」等の活動を通じて、大学での人材育成を補完しておりますが、こうした取り組みを拡充したいと考えております。

本会は公益法人制度改革に伴い、昨年8月に一般社団法人に移行するとともに鉄鋼会館内へ事務所を移転いたしました。鉄鋼関連の各団体や企業との連携協力を深め、鉄鋼産業、鉄鋼技術の発展向上に向けて努力して参ります。

最近、文部科学省や経済産業省を中心として構造材料技術に関する施策が展開されていることは心強い限りです。こうした動きに呼応して、材料系の関連学協会も連携して、総合力が発揮される体制を構築していくことが必要です。この他にも、科学技術政策への対応、国際交流の促進、社会人の人材育成、広範な他学協会との連携等、行うべきものは多数ありますが、これまでの事業を基に本会がより活性化する方策を継続して考えていきたいと思っております。

本会は2015年に100周年を迎えます。「第5版鉄鋼便覧」や「鉄鋼材料と合金元素」の記念出版事業、「鉄と鋼」第100巻記念特集号の発刊などが準備されています。100周年を契機としてさらなる会員サービス向上、業務効率改善のためのシステム改善に取り組みます。会員組織という協会の原点にたつて協会活動を進めていきたいと思っております。

このような大きな節目を迎えるときに会長としての責務を果たすためには会員各位のご協力が不可欠であります。

会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。